

子どもが学びをつなぐ社会科学習

社会科

緒方 宏文
永倉 泰治



研究テーマについて

1 深い学びのある授業のなかで見えてきた子どもの姿

- 1 単位時間の学習のなかで、複数の資料から読み取った事実を基に、事実同士のつながりを見いだしたり、仲間と自分の意見を比較したりしながら考えることができるようになった。
- 学習してきたことを基に、自分たちの社会へのかかわり方やこれからの社会の展望を捉え、これからの社会の在り方についてよりよく考えることができるようになった。
- 自分の考えをもつことはできるようになってきたが、そこからさらに考えを深め、集団にとってよりよい意見を出すまでには至らないこともあった。

2 学びをつなぐ姿

- 問題をつかむ場面
 - ・ 複数の資料から事実を読み取り「なぜだろう?」「知りたい!」という疑問や思いをもつ姿
- 事実から自分の考えをもつ場面
 - ・ 資料から読み取れる事実を基に、学習問題に対して自分の考えをもつ姿
- 話し合う場面
 - ・ 資料から読み取った事実を根拠に、自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の考えを自分の考えと比べたりしながら、学習問題に対する答えを追究していく姿
- まとめる場面
 - ・ 学習してきたことを基に、学習問題に対する考えをまとめる姿
 - ・ これからの社会について、自分たちの課題を見だし、解決方法や生き方等よりよい考えをもつ姿

総合的な学習の時間や生活科及び特別活動とかかわる資質・能力について

「学びをつなぐ」姿でも述べた社会科の問題解決的な学習の在り方は、総合的な学習の時間における探究的な学習とかかわりが深く、十分に生かすことができる。特に、事実から自分の考えをもつ場面において見られる、資料同士や分かったこと等を比較したり、関連付けたりする考え方は、教科等横断的な視点からも重要なものであると考える。例えば、第3学年におけるきゅうり農家の学習では、「きゅうりの育つ時期」と「宮崎の出荷量の時期」を比較して学習問題を設定し、他地域のきゅうり栽培の方法と比較しながら、きゅうり農家の工夫や努力について考えてきた。第6学年の政治単元では、過去の選挙のデータを基に学習問題を設定し、今の自分たちにできることや将来選挙に自分たちがどのようにかかわっていけばよいかを考えてきた。

また、学習問題や学習テーマに対してよりよい考えを導き出す際に、過去や現在の出来事から課題を見いだす。そのなかで解決方法や生き方等をよりよく考える姿は、特別活動における「合意形成」を図るための話し合いにおいて、テーマに沿って論点を整理し、よりよい考えを生み出す過程において、十分に生かすことができる。

研究内容

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

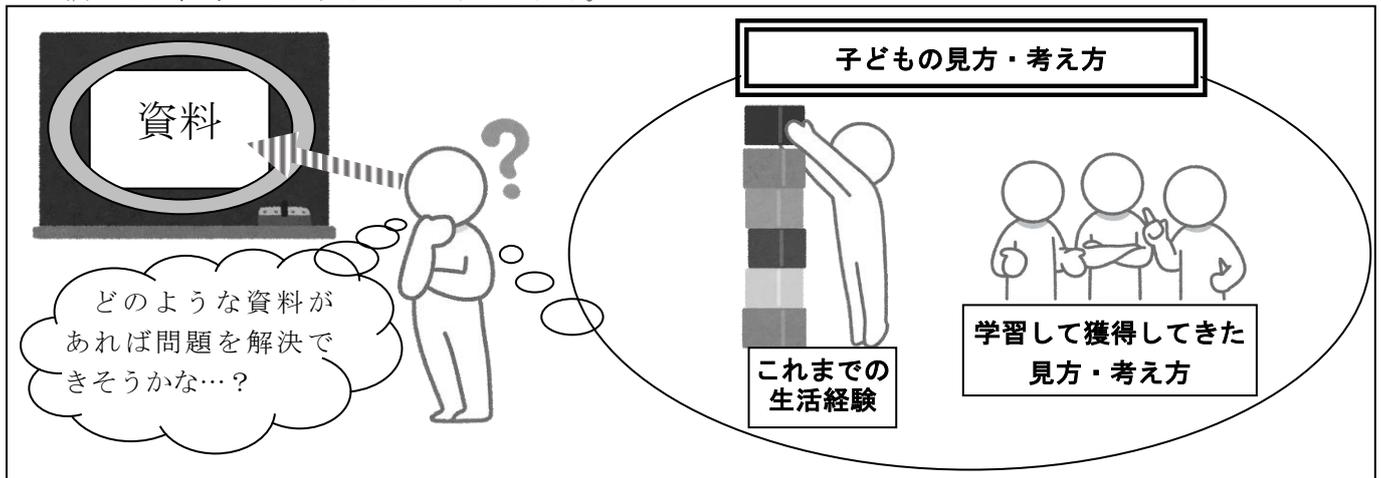
- (1) 子どもが「見方・考え方」を働かせることができる資料提示の在り方
- (2) 自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができる学習指導の在り方

研究内容の基本的な考え方

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

(1) 子どもが「見方・考え方」を働かせることができる資料提示の在り方

子どもが「見方・考え方」を働かせるためには、問いに対して自分なりの予想を立て、どのような資料があれば解決できそうか見通しをもつ必要があると考える。そして、資料から調べる際には、様々な視点から調べたり、考えたりすることが求められる。



しかし、これまでの生活経験や学習して獲得してきた「見方・考え方」が多様にあっても、一定の「見方・考え方」に偏って物事を捉えてしまっている場合がある。

そこで、資料の提示の仕方やその際の発問等、子どもの様々な「見方・考え方」を働かせることができるような資料提示の在り方について、追究していく。

(2) 自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができる学習指導の在り方

1 単位時間の学習において複数の資料から分かったことを基に、比べたり関連付けたりして、子どもは問いに対して「見方・考え方」を働かせながら自分の考えをもつ。また、「生かす」段階では、これまで学習してきたことを基に、「見方・考え方」を働かせながら、自分がどのように社会にかかわっていくとよいか考えをもつ。その際、仲間と考えを伝え合い、様々な「見方・考え方」に出合わせることで、自分の考えを見つめ直し、よりよい考えにすることが大切である。



そこで、1 単位時間や単元の終末の「まとめる段階」において、子どもが自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができるような学習指導の在り方について追究していく。

研究の実際

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

(1) 子どもが「見方・考え方」を働かせることができる資料提示の在り方

第3学年：「きゅうり農家をたずねて」

きゅうりは、どの時期にとれる野菜なのかな？

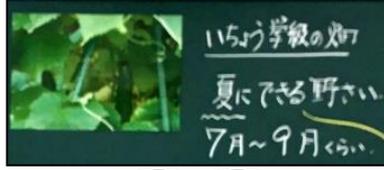


きゅうりは、どの時期に出荷しているのでしょうか？



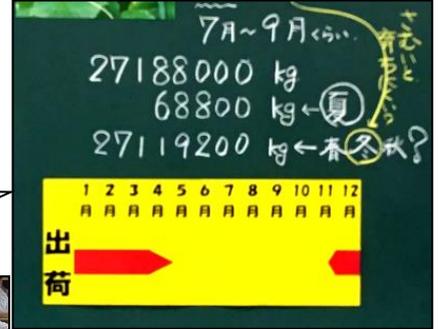
宮崎市 生さんりょうベスト3	
1	きゅうり 27188000kg
2	トマト 6110000kg
3	ピーマン 4400000kg

【きゅうりの生産量】



きゅうりは、学校の畑にもあったし、夏によく見るな。出荷も夏のはず。

え!?



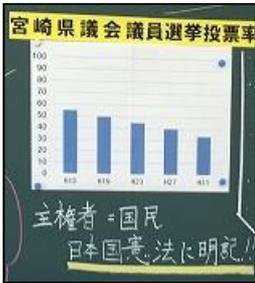
【きゅうりを出荷する時期】



きゅうりの生産量を示し、子どもの経験からきゅうりは夏にできるという意識を確認した後、宮崎市がきゅうりの出荷時期が主に冬であることを示すことで、子どもの思考を揺さぶり、問題意識をもたせることにつながった。

第6学年：「政治とわたしたちの暮らし」

宮崎県の投票率は、どのように変化してきたのでしょうか？



【宮崎県議会議員選挙の投票率】

投票は、願いを叶えるためにも必要なのに、なぜ投票率は下がっているのかな？



願いを実現するためには、どうすることが大切でしょうか？

投票が大切だと分かっているのに、なぜ10代の投票率も下がっているの!?



【10代の投票率】

投票率を上げることが大切だと思うよ。そのためには…。



願いを実現するために投票をすることが重要であることを確認し、10代の投票率が低下していることを示したことで、低下の理由や投票率を上げるための方策を、様々な視点から考え、まとめることができた。

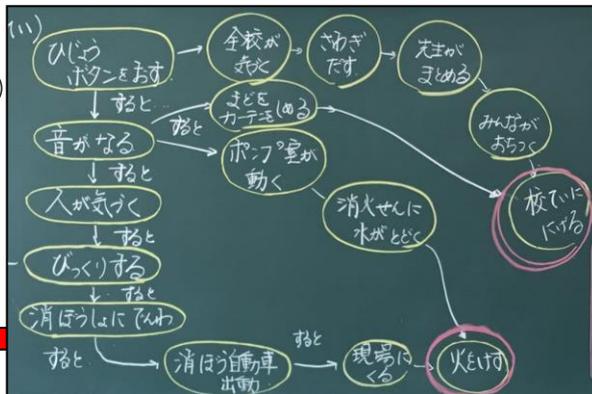
(2) 自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができる学習指導の在り方

第3学年：「火事からくらしを守る」

非常ボタンを押すと、音が鳴って…すると…。



自分の考えを整理する



「すると」ステップチャート

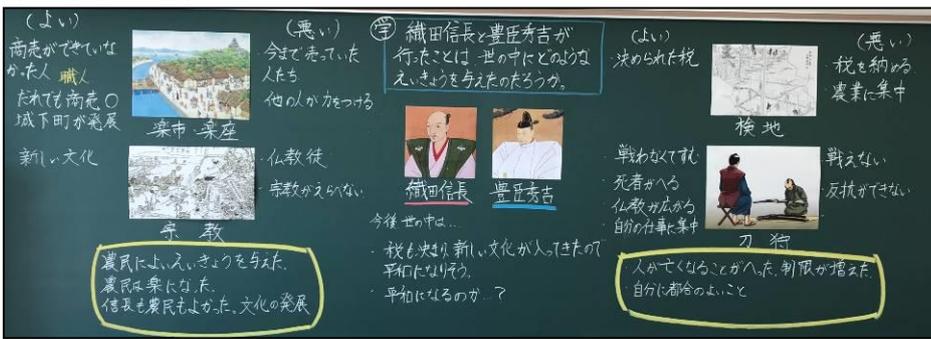
非常ボタンを押すだけでも、いろいろなことが起きるのだな…。



学習問題に対するまとめ

「すると」ステップチャートを用いて、非常ボタンを押すことが、火事とどのようにつながりがあるかを考えさせたことで、様々な視点から学校にある設備の役割について捉え、学習問題に対する答えをまとめることができた。

第6学年：「戦国の世から天下統一へ」



視点ごとに比較しやすいように、黒板の左側に織田信長、右側に豊臣秀吉の政策を板書した。

織田や豊臣が行ったことは、世の中にどのような影響を与えたのかな…？

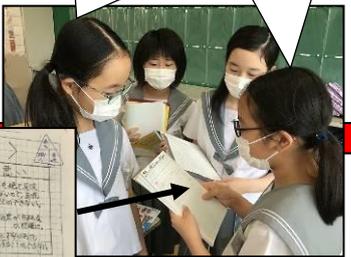
織田の政策によって、日本の文化は発展してきたのだと思うよ。

豊臣の、農民の反乱を許さなかった政策が、身分差を生んだのだと思うよ。

文化が発展した一方で、身分差も生まれてしまったのだな…。



自分の考えをもつ



比較表を基に意見を交流する



意見を見つめ直す

織田・豊臣の取組を比較できるように板書し、子どもに比較表を用いて意見を交流させたことで、二人の武将の政策を比べながら、世の中に与えた影響について考え、自分の考えを見つめ直し、まとめることができた。

今年度の研究のまとめ

1 「学びをつなぐ」姿を実現するための学習指導の在り方

(1) 子どもが「見方・考え方」を働かせることができる資料提示の在り方

- 資料の選択については、単元の目標や内容に応じて、教師側が何を考えさせたいのか、何を読み取らせたいのかという意図を明確にしたことで、学習問題に対して考えを深めることができていた。
- 子どもの思考の流れを予測して、資料の提示の仕方を工夫したことで、子どもの多様な「見方・考え方」を引き出すことができた。
- 資料を提示する意図を明確にし、子どもに分かりやすく発問しなければ、子どもの考えが定まらず、資料を読み取る際に、必要な情報を読み取るができなくなってしまう。

(2) 自分の考えを見つめ直し、よりよい考えをもつことができる学習指導の在り方

- 学習問題に対する自分の考えをもつ時間を確保したことで、仲間と話し合う際に自分の意見と仲間の意見とを比較しながら、共通点や相違点を見付けだす姿が見られた。
- 話し合い後に、自分の考えを見つめ直す時間を確保することで、話し合いのなかで得られた新たな見方・考え方を基に自分の考えを変更したり、より具体的なものへと修正したりする姿が見られた。
- KJ法やベン図、「すると」ステップチャート等、学習内容や学習目標に合わせた思考ツールを活用して子どもに考えさせたことで、自分の意見を見つめ直したり、仲間と意見を交流したりすることができた。
- 思考ツールの活用については、単元のなかで活用する場面を吟味する必要がある。また、その思考ツールを活用することで、子どもの思考がどのように働くのか、教師側は十分把握しておく必要がある。
- 思考ツールについては、3～6年生までの4年間のなかで経験を積み上げたり、総合的な学習の時間や特別活動、他教科との教科等横断的な視点で学習を進めたりしながら、子どもが必要に応じて活用できるようにすることが大切である。

参考文献： 小学校社会科「新内容・新教材」指導アイデア 北俊夫 明治図書 2018
 授業力&学力アップ！図解型板書で社会科授業 寺本潔・一ノ瀬喜崇 黎明書房 2008